

総会開催にあたり

上田千曲高校同窓会関東支部会長 深町 共榮（S37 年電気卒）
故郷の山々が紅葉の時期となりましたが、関東支部会員の皆様におかれましては、ご清栄にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

日本の構造改革を推進してきた小泉内閣に代わり若い安部総理のもとに新内閣が誕生し、中国、韓国との外交復活の兆しが見え、また景気回復の影響を受けて社会も元気を取り戻した感があります。また、長野県では、田中知事に代わり村井知事となり、また丸子町、真田町、武石村が上田市と合併し新生上田市が誕生し、初代市長に母袋創一氏が就任されました。母校

におきましては、4 年間勤められた飯島彦太郎校長から六川良明校長にバトンタッチされました。このような変化が、明るく健全な故郷及び母校の発展に繋がることを願うものです。

来年は母校創立 90 周年となり、記念行事が組まれております。関東支部としましては、この記念行事にあたり、役員会を中心に多数参加できる体制を整えて伺う予定です。会員の皆様もこの企画にご参加願えることを期待しております。

今年の関東支部総会は、機械部会の柳澤武氏に実行委員長のもと、11 月 26 日（日）、はあといん乃木坂で開催されます。基調講演では機械科 31 年卒の宮下六郎氏に印象画についてお話いただくことになり、また、同氏の絵画の展示もあります。アトラクションにおきましては、宮下六郎氏のお兄さんである宮下要氏（機械 25 年卒）にバイオリン演奏をしていただけることになりました。

振り返りますと、平成 14 年から、小山哲男氏（商業 27 年卒）による「染めもの」、15 年、笹井弘氏（機械 46 年卒）「エコロジーとアート」、16 年、土屋憲三氏（商業 32 年卒）「老後の趣味の世界・住まいとミニ盆栽」、17 年、清水永子氏（家庭 30 年卒）「ちぎり絵にめぐり逢って」と、ここ 4 年間に加え今年も芸術と趣味のお話がいただけるのは、高齢化が進み、充実した人生の生き方を求めている人が増えていることの反映かと存じます。総会に向けて役員一同、会合を重ねて準備してまいりました。今年もまた一人でも多くの会員の皆様にご出席いただけることを願っております。



ご挨拶と近況報告

上田千曲高等学校同窓会会長 宮澤令行（S33 年建築卒）

会員の皆様におかれましては日々ご健勝にてご活躍のことと拝察申し上げます。近年の気象状況は、異常気象の連続で国内はもとより世界各地で大きな災害が発生しています。県下でも 7 月の豪雨により人命を奪う惨事が起きています。この上田市でも河川の増水により道路が崩壊し、車ごと激流に飲まれ未だに行方不明の惨事が起きました。「災害は忘れた頃にやってくる。」といわれますが、事前の予防や準備が大事な要素と言えましょう。昨年来本校創立 90 周年記念事業実行委員会を立ち上げ、事業に必要な資金の募金活動を行っていますが、8 月末現在で目標の 3 分の 1 程の協力に止まっています。これも 80 周年記念の後、災害と同様に何の準備もして来なかった「付け」と執行部の力不足が今回の結果と大いに反省しております。さて、同窓会の活動状況は、主に来年迎える 90 周年記念事

業の取り組みを校内の機械科棟の 1 階に事務所を構え、上羽貞子先生（元本校先生・昭・26 家卒）を筆頭に本校卒業で現役の先生 5 人を中心に展開しておりその他、生徒の部活動の応援、長野県教育委員会による高校再編計画で本校の定時制を屋代南高校に統合されることに対する存続運動の活動をしています。事務局では、主に上田市を中心にした支部組織の結成を急ぎ、募金活動がスムーズに出来るようにすることや記念誌の編集等に懸命に努力しています。部活動では、残念ながらこの 5 年あまりで東信地区で常勝チームとなり、県大会でいつもベスト 8 まで残れる実績を続けてきた野球部の「日置監督」が学校の人事により、夏の大会を最後に引退することになってしまいました。90 周年に向け甲子園を目指してきた我々に取っては誠に残念です。しかし引き継いだ新監督の「花岡監督（体育教諭）」に期待をして行きたいと思います。定時制の存続については、ご存じの通り 8 月に行われた長野県知事選で 6 年間続いた「田中康夫」県政から村井新知事に代わりました。長野県を大きく変え、色々な問題提起をした田中知事でしたが、高校再編計画が一つの争点ともなり当落の票に影響があったと言われており、村井新知事の「地域の合意のない計画は、白紙に戻す。」とする意見に、教育委員会が軟化を示しており存続に向け大きく動き始めていますので、期待をしているところです。関東支部の総会が、盛大な会になりますことと関東支部のますますのご発展を心から念じております。また、引き続き同窓会及び 90 周年記念事業にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。尚、お陰様で記念事業のメインであるトレーニングルームの新設及びトレーニングマシンの設置は既に完成し多くの部員が競って利用をしていることを報告いたします。

ご挨拶

上田千曲高等学校長 六 川 良 明

上田千曲高等学校同窓会関東支部の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃母校のために物心両面からご理解とご協力をいただき大変ありがとうございます。紙面をお借りしまして改めて感謝申し上げます。

さて申し遅れましたが、私はこの四月から定年退職された飯島前学校長の後を受け本校に着任し、お世話になっております。宜しく願いいたします。簡単に自己紹介しますと私自身も上田の神科地区は大久保の出身であります。文字通り三十年間日本の高度経済成長とともに、馬車馬ながら突っ走ってきました団塊の世代の先頭グループの一人です。

駆け出しは神奈川県三浦市にありましたが、というのは現在統廃合で新たな高校になっておりますが、当時神奈川県三崎高校を振り出しに長野県内の普通高校を経て、この上田千曲高校で都合十校目になります。が本校のような専門高校（今は職業高校とか実業高校という呼び方はしません。また 7 つの全日制の専門学科と定時制の機械科があります。）で生徒と教職員を合わせると千名を超す大規模な高校は初めてですので、戸惑いながらも生徒や PTA また宮澤令行同窓会長様はじめ同窓会の皆様には扶けていただきながら、何とかここまで辿りつくことができました。先に統廃合ということを行いました。長野県もご承知のように高校改革プランの検討が進んでおります。現在 90 校の公立高校を 70 数校に統廃合する原案があり、本校では定時制の行方に懸念しております。またご承知のように県知事も田中康夫氏から村井仁氏に変わり県政も新たな局面を迎えております。そんな時勢の濁流の中で 2 つ特筆すべきことがございます。1 つは、上田千曲高校は来年創立 90 周年の輝かしい伝統をお祝いすることです。祝賀を迎えるに当たり、事務局を中心に記念事業を計画し、千曲高校の教育環境の整備を目途とした、更なる同窓生のご芳志を募っておりますので改めて宜しくお願いする次第であります。もう 1 つは運動部の幾つかの班の活躍が目覚ましく、県内では強豪の常連として注目されていることでもあります。特に硬式野球班は上昇気運に乗り頑張っておりますので夏の松代高校の活躍に続き、何とか創立 90 周年に花を添えてもらえないかという思いが切にございます。

最後になりましたが関東支部の同窓会総会が毎年盛大に行われることに敬意と感謝の念を持ちながら、今年も貴会の更なるご発展を祈念しご挨拶といたします。



司会の佐藤宏次氏と人見昭子氏



ご挨拶

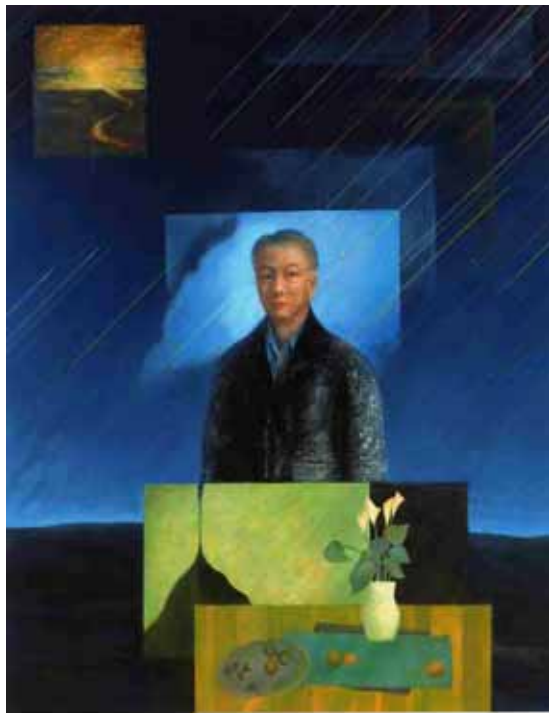
柳沢武 (S31 年機械卒)

私は実行委員長の機械科 31 年卒業の柳沢でございます。一言ご挨拶申し上げます。母校から校長先生ならびに恩師の先生方、本部同窓会より役員の皆様方をお迎えし、沢山の同窓生のご協力をいただき、今年もまた盛大に上田千曲高校関東支部総会を開催できる運びになりました。このことを、誠にありがたく感謝申し上げます。このところ日本の平均寿命の伸びは止まった様子ですが、同窓会にお集まりいただける皆様方は、気力充実し人生まだまだと思ひ、友人、知人に会えることを楽しみにお出掛けいただけるものと思います。年に 1 回の会う瀬を存分にお楽しみ下さい。食べ物、飲み物は十分用意するつもりではございますが、足りない分は語らいで補い最後まで賑やかに、楽しくお過ごし戴ければ幸いです。



基調講演、宮下六郎氏略歴と講演について

上田市に生まれる、上田千曲高校機械科を昭和 31 年に卒業、(有)アーム工業を設立して代表取締役、引退後の楽しみに、子供の頃より好きで奥様も趣味である絵画を習うことにし、奥様の師で第一美術協会に所属する、浦野画伯に師事し心象画を習う。通常は、120 号のキャンパスに描いておられるとの事ですが、この度の今年個展を開く機会があり、10 号程度の絵を描かれ会場でご覧戴いただける事になりました。講演の概略、宮下六郎氏が描く心象画について、同氏の気構えやその絵に込める同氏の思い等を、肩の凝らない内容でお話いただけるとの事です。



第77回第一美術展 (2006) 宙(そら) I 宮下六郎

宮下六郎氏の作品 宙(そら) I



同窓会風景(上、商業科の皆さん、下、信濃国斉唱)
(同窓会風景写真は、横谷安定氏撮影)

アトラクション特別出演

バイオリン演奏 宮下要氏 (S25 年機械卒) のプロフィール



小金井市在住。長野県上田市生まれ。NHK 名古屋放送管弦楽団、東京フィルハーモニー管弦楽団の副コンサートマスターを勤め、読売日本交響楽団創立と同時に入団。第一バイオリン奏者として在籍 10 年の後、群馬交響楽団のコンサートマスターとして 3 年間活躍。その後、読響に復籍、第二バイオリントップ奏者を 6 年半勤めた後、第一バイオリン奏者として演奏に従事。現在は東京ユニバーサルフィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター。また、新宿ミュージックアカデミーにて後進の指導にもあたっている。(宮下六郎氏は宮下要氏の弟)

(<http://www.symphonica.net/concert/play/miyashita.html> より)

上田千曲高校同窓会関東支部の発足と総会の回数について

深町共榮 (S37 年電気卒)

昨年、上田千曲高校同窓会関東支部の創立の経緯につき、綿貫隆正先生から原稿をいただき、それを昨年の第 10 号の関東支部会報に掲載させていただきました。それは、支部長本田昌三氏 (20 年商) のもとに昭和 27 年 10 月 19 日、中央大学食堂にて総会が開催されたとの内容でした。これは、公式的な記録に基づくものです。

しかし、この会報を読まれた丸山登一郎先生から、昭和 27 年の関東 (正確には東京) 支部会は自発的な組織ではなく、現在の関東支部の総会は昭和 49 年頃のものであるとのご指摘をいただきました。その後、上羽貞子先生、大川秀一先生から本部同窓会の資料の中から関東支部に関する資料が数点送られてきました。その資料の中の昭和 49 年上田千曲高校同窓会報には、第 1 回総会が、9 月 29 日に開催される予定の旨と当時の世話人名簿が記載されております。翌年 (昭和 50 年) の同窓会便り (名称変更) には、丸山先生の記事があり、それによると第 1 回関東支部総会は、東京都道府県会館で開催されたとあり、また、同便りには、神林徳治氏が昭和 50 年 9 月 21 日に第 2 回総会が約 200 名の参加を得て開催されたとあります。また、そこには会則が定まらず役員は暫定的であるとの事も記載されていました。こうなりますと関東支部の発足は何時からとすべきか良いか問題です。昭和 27 年の発足も事実ですし、また、第 1 回は、昭和 49 年としてありますから、それもまた認めなくてはなりません。昭和 27 年の記録に基づき、昨年の広報で私は、関東支部は創立 55 周年をまもなく迎えると述べてしまいましたが、その為と言う訳ではありませんが、関東支部の発足は、昭和 27 年からとし、その総会を発足会とし、正式の第 1 回総会は昭和 49 年としてはいかがでしょう。さて、このようにすると現在の総会は、何回目になるかという事です。昭和 49 年以後、平成 6 年に 1 回総会が開催されていませので、第 1 回から数えると今年の総会は、32 回目となります。副会長の成澤智嗣氏より、総会の回数を案内状等に明記すべきとの要望があります。ここに述べた事柄から、総会の回数につき会員の皆様のご理解がいただければ今後回数を明記したいものと思います。いかがなものでしょう。

(第 1 回関東支部総会の世話人会開催は、本部同窓会の滝沢隆会長と庄田文雄校長先生とが呼びかけており、この当時には会則はなかったようです。しかし、東京支部建築部会が昭和 40 年 11 月 23 日に会則を制定しており、その会則に基づいて長年関東支部の運営がされていたようです。現在の関東支部の会則は平成 7 年に制定されたものです。会報は平成 8 年から発行しています)。

ご案内 「たそがれ兄弟 4 人展」

小林侑氏 (S27 年機械卒) ご兄弟による写真及び絵画の展覧会が、11 月 9 日より 13 日まで上田観光会館 2 階 (TEL0268-25-4403) にて開催されます。上田にお出掛けの機会がありましたらお立ち寄り願います。

(広報にのせる記事、連絡事項がありましたら事務局にお寄せ下さい)

関東支部同窓会事務局

〒369-0293 埼玉県深谷市普濟寺 1690 埼玉工業大学 深町研究室

TEL 048-585-6856 FAX&TEL 048-585-5927、e-mail tomoe@sit.ac.jp